

### コロンビア区公共図書館内 盲人・身体障害者図書館

ワシントンD.C.のGストリートにひときわ目立つ総ガラス張りのモダンな建物がある。コロンビア区公共図書館である。ここに盲人・身体障害者にサービスする図書館がある。

米国議会図書館の盲人・身体障害者全国図書館サービス(National Library Service for the Blind and Physically Handicapped:略称NLS/BPH)では、盲人に対して録音図書、点字図書を製作して全米の登録館を通じて提供しているが、コロンビア区の窓口になっているのが、この図書館である。スタッフは、G.J. Lyons 女史ら11人。NLS/BPHから定期的に送られてく

ービスに当たっている。

また、1978年10月から、この図書館独自でボランティアによる録音テープの製作を始めている。ボランティアは、「Tape Recording Manual」により訓練をうけ、年間10ドルの個人会費を納めて登録をうけ、無償で視覚障害者のための朗読に従事している。図書館には、レコーディング・スタジオがないため、録音機器が貸出され、ボランティアは自宅で製作している。現在60名のボランティアが登録され、1ヶ月に2,000頁分のカセットテープを製作している。製作期間は、著作権の処理を含めて平均6ヶ月かかるため、学生からは学期内に間に合わないという苦情が多いという。

視覚障害者には先ず書誌情報を提供する



る録音図書、点字図書の地区の盲人に対する貸出、リーディング・マシンの貸出、修理、読書相談などの業務を、週単位のローテーションで担当地区内を巡回配本するほか、留守番電話も使って24時間図書館サ

ルが必要で、そのため、ニューヨーク・タイムズのブックレビュー欄を定期的に録音してサービスしているが、好評のため全米の利用者にも提供している。

(14ページへ続く)

- op. cit., p. 207 所収).
- (31) Shera, op. cit., p. 226~28.
- (32) Dictionary of American Biography, v. 18 (1936) p. 524~25.
- (33) Wright, Lyle H.: A statistical survey of American fiction, 1774~1850. Huntington Library Quarterly, v. 2, (1939) p. 309 (Shera, op. cit., p. 121 所収).
- (34) Wadlin, op. cit., p. 30.
- (35) Harris, Michael H., op. cit.
- (36) Cutler, Wayne & M.H. Harris: Justin

- Winsor; scholar-librarian. Littleton, Colo., Libraries Unlimited, Inc., 1980. 196p.
- (37) Wadlin, op. cit., p. 65.
- (38) Utley, George B.: The Librarians' Conference of 1853; a chapter in American library history. Chicago, ALA, 1951 189p.  
また Green, Samuel S.: The public library movement in the United States 1853~1893. (Boston, 1913 336p.) も詳しい。  
(なかばやし・たかあき  
アジア・アフリカ課)

(48ページより続く)

弱視者のための大活字本は、数多く出版されている。ここでは約7万冊所蔵し、その一部が閲覧室に備付けられている。大活字本といっても、現在では本の形態は一般書と変わらず、携帯にも便利なものに改善されている。閲覧室には World Book Encyclopedia (全30巻)、ワシントンのメトロガイドなどの大活字本が書架を飾り、催物案内が点字で壁面に掲示されている。ここはまた利用者の談話の場ともなっており、ボランティアが直接障害者と接触し、さまざまな問題が話し合われている。そして毎年4月「オープンハウス」が開催さ

れ、障害者等300人が招待される。出席者の半数は視覚障害者で、新しい機器の使い方、図書館に対する要望のほか、視覚障害者の作った作品の合評、さらには家庭用品の使い方に至るまで話し合われ、利用者相互、ボランティア、図書館員の交流の場となっている。また、ボランティアの表彰などもここで行なわれている。

図書館を辞して地下鉄の入口まで来たとき、身障者用メトロエレベーターがあったのが今でも強く印象に残っている。(視覚障害者図書館サービス協力室 北川和彦)